

# 樋渡市長に振り回される武雄市

## 図書館や生活保護に Tポイント導入なんて

一月一八日、佐賀県武雄市で開かれた「日本フェイスブック学会」で樋渡啓祐・武雄市長は、地域通貨としてTポイントを採用し、生活保護をTポイントで支給する構想を明かした。市長は、市立図書館へのTポイント導入も明言しているが、取材を進めると……。

### 昼間たかし

五月四日、武雄市の樋渡啓祐市長が、TSUTAYAを運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)と提携し、武雄市図書館の運営を委託することを発表した。図書館の民間委託は既に行なわれていたが、CCCとしては初の試みだ。樋渡市長は、委託によって現行一億四五〇〇万円あまりの年間経費が、一割削減できること。開館時間三六五日、朝九時から夜九時までにできること。さらには、図書館にカフェや文房具店を併設し雑誌販売もできるという構想を語った。

樋渡市長が例として取り上げたのは、CCCが代官山で運営している代官山麓屋書店。旧山手通り沿いの四〇〇〇坪(約一万三二〇〇平方メートル)あまりの敷地に立つ、書店とカフェバーなどが合体した「大人向け」の新形態の書店は、同社の増

田宗昭社長が自著「代官山オトナTSUTAYA計画」の中で「ひとりの集大成」と書いている。

樋渡市長は記者会見で「このノウハウを、そっくりそのまま、新武雄図書館に入れこめたい。このサービスが公立図書館で再現ができる。そういう知的な空間を目指していきたいと思っています」と語っている。

だが、世間が注目したのは地方都市にオシャレ図書館を建設する企画に対してではない。樋渡市長が、自ら「自画自賛」と語ったTカード、Tポイントの導入に対してだった。



2012年5月4日、樋渡市長(左)とカルチュア・コンビニエンス・クラブの増田宗昭社長。(提供/共同)

TカードはTSUTAYAをはじめ提携店で発行しているカードで、提携先企業が提供する商品の購入やサービスの利用に応じてTポイントを貯めることができる。Tポイントは提携先で一ポイント一円として使えるが、「T会員規約」によると、利用者の「購買履歴」を記録しCCC以外の事業者にも提供される仕組みになっている。

これは、「図書館の自由に関する宣言」に記された「図書館は利用者の秘密を守る」、すなわち図書館は利用者の貸し出し履歴などを一切第三者に明かさないとという大原則に真

用できたのに、現在はできなくなつて不便しているとの声も上がった。では、年中無休で朝九時から夜九時まで開館、スターバックスでコーヒーも飲めて、文房具も買える図書館は、武雄市にふさわしいものなのか。西河内さんは開館時間を長くしても、客はこないと断言する。

「都会でも、遅い時間まで開いていて利用者がいるのは都心のターミナル駅に近い図書館だけです。私が以前、勤務していた荒川区立図書館は午後七時三〇分まで開館していましたが、遅い時間になるとガラガラでしたよ。武雄市に本当に必要な図書館と、樋渡市長がイメージしている図書館とは、ずいぶんズレているのではないかと思います」

現地を訪問した筆者の印象では、たとえオシャレになったところで、市民で大混雑など夢物語だと思つた。現地を訪れた平日の日中、市の中心駅である武雄温泉駅前にあるのは、がらがらの観光案内所とコンビニだけ(なにか食べ物を買おうと思つたら、午後七時を回ったばかりなのに、コンビニはすでにおにぎりもなく閉店寸前)。駅から市役所へ向かう途

### ネットでは強気なのに

中では一、二台の車とすれ違っただけで、人と出会うこともなかった。オシャレな図書館が人を呼び込む起爆剤になると思えない。

問題の本質は、「善意」に基づいた樋渡市長の間違った信念が問題を複雑にして、武雄市のイメージを悪化させていることだ。(九月に初の総会なるものを開いたが)実態不明の「日本ツイッター学会/フェイスブック学会」会長を名乗る樋渡市長は、批判に対してブログやツイッターを用いて反論を繰り返している。誰もが見える形で議論が行なわれることを目指しているのかと思いきや、都合の悪いことは無視する。理由は「新聞と異なり内容の訂正等に対する対応が難しい」ことがありますが、市長は以前、某雑誌から取材内容とは異なり意図を捻じ曲げられた記事を掲載されたことがあったことから、雑誌取材に対しては慎重になつております(秘書課)。

新聞だつたら市長の気に入らないことを書いたら訂正してくれるのだろうか。もちろんそんなことはない。

つ向から挑戦している。

記者会見は、インターネットの「Stream」で中継され、「Twitter」からの質問も受け付けた。これを見ていた、産業技術総合研究所情報セキュリティ研究センター主任研究員の高木浩光氏は「Tポイントカードで図書を借りたときに、借りたという情報はCCCに提供されるんでしょか」などの質問を送った。質問に対して「そこはまだ決めていません」というCCC担当者に対して、樋渡市長は、

「なんで本をね、借りるのが個人情報なのか、って僕なんか思います」と発言。さらにCCCの担当者は「CCCとして、個人の情報の履歴をです、どこかに出したりってことは一切やっていない」

「マーケティングでデータベースとして使用するということは、有り得るかなあ」と述べたのだ。ことと次第によつては、図書館への信頼をなくしかねない動きに、激震が走った。

### 市教委は無理と明言

五月二八日、日本図書館協会は「武雄市の新図書館構想について」と題したCCCへの委託を懸念する文章を発表。日本文芸家協会も同じく、ポイント付与は「いたずらに青少年の利欲を刺激してあおる懸念があり、教育的配慮に欠ける」と憂慮

樋渡市長には言行不一致がありすぎる。六月のヒアリングの際、市議会を傍聴した日本図書館協会の人々が樋渡市長に挨拶したところ、彼は「公開討論をやろう」と言い放った。ところが、当日のブログには「公開討論会でみんなの前で話し合いますよ。と言ったら、なしのつぶて。ダメですね」と、一方的な記述が。その後数か月経ったが西河内さんに公開討論を開催する連絡は来ていない。

その間も、ネットで「取材を受け」等々の発言を繰り返しているが、筆者の呼びかけには応えたことがない。

そこへ来て、一月一八日に武雄市で開かれた「日本フェイスブック学会」で、樋渡市長はTポイントを地域通貨にして、生活保護を、これで支給する構想を示し、またまた注目を集めている。だが、武雄市には生活必需品を確保できるだけのTポイント加盟店はないし、増えるとも思えない。

この半年あまりで武雄市の名は全国に知られるようになった。「ヘンな市長のいる町」として。この町に、明るい未来がやってくる感じは、まったくくない。

ひるま たかし・ルポライター。

する文書を出している。

六月、日本図書館協会が地元住民や図書館関係者からヒアリングを行なつと聞いた筆者は現地に同行した。図書館を管轄する教育委員会の担当者らは

「Tカード導入が」問題なのは、わかつている。そのまま導入はあり得ない」

と繰り返した。まるで樋渡市長が一人で先走っていると言いたげだった。ヒアリングに参加した、日本図書館協会、図書館の自由委員会委員長の、西河内靖泰さんは話す。

「はつきり言えば、問題なのはTカードを導入するか否かだけです」ヒアリングで、教育委員会は「問題点は理解し是正する」旨を発言している。現状、樋渡市長の「夢」はともかく、Tカードが、そのまま導入されて、個人情報などが漏れという最悪な事態は避けられそう。

### 市民は望んでいるのか

しかし、問題はの部分だけでは

ない。西河内さんは続ける。「樋渡市長が話している代官山麓屋書店みたいなものが、市民の望んでいる図書館かどうか、疑問です」

ヒアリングでは、住民がなんらかの形で、図書館の充実を求めているのは明らかだった。隣接する伊万里市の図書館は武雄市よりも充実しており、市町村合併前は武雄市民も利